

バルセロナの病院について私見を、医者立場から述べさせていただきます。バルセロナも、日本も基本的な部分では、医療は変わりません。個人的に、サンパウ病院の救急部を子供が受診した時には、医療行為そのものには全く違和感を感じませんでしたし、逆に感心させられた部分も多くありました。スペインの職場の同僚に聞いた話では、スペインの医者の資格をとるためには、ハードルの高い国家試験をパスしなければならないようです。ただ、日本も含めすべての医者が優れているとは限りません。医療の知識は日々変化しますし、手技的なものも個人の努力に比例して上達します。しかし、日本ですらそうですが、異国のスペインにおいて私たちが、どの先生が信頼できるかという判断をすることは非常に困難です。私の臨床医としての経験から言える事は、患者さんの話をよく聞いてくれる先生は、まず良い先生の第一条件を備えていると思います。なぜなら、医療においては、問診を含めたコミュニケーションが重要な役割を担うためです。その様な意味で、いろいろな病院や先生をご存知の下山さんの様な医療通訳の方がいらっしゃるのには、バルセロナに在留されている日本人の方々にとって大変心強いことだと思います。先日も、私が歯の治療が必要となり、自分の要望を下山さんにお話し、歯医者さんを紹介して頂きました。そのお陰で非常に安心して治療を受けることができました。病気に罹らないことが何よりですが、そうなった時でも、バルセロナ在留の皆様が日本と同様に良い医療が受けられ、医療面での不安がなくなりますように、今後も下山さんの活躍に期待します。

(2004年サンパウ病院病理部留学、鹿児島大学産婦人科医師 辻隆広)

辻隆広